

事務事業マネジメントシート(平成27年度実績と平成28年度計画)

平成28年 9月29日更新

事務事業名		高齢者住宅改造助成事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部	課長名	水野 孝春
	施策	16	高齢者の自立と社会参加の促進			所属課	高齢者支援課	担当者名	坂本 健
	施策の柱	50	高齢者支援体制の充実			所属班	高齢者保険班	(内線)	2146
予算科目		会計一般	款 3	項 1	目 4	事業連番 10502	根拠法令	熊本県高齢者等住宅改造助成事業実施要項 合志市高齢者住宅改造助成事	
終了、開始年度		<input checked="" type="checkbox"/> 27年度で終了 <input type="checkbox"/> 27年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	○在宅の要介護高齢者がいる世帯に対し、住宅改造に必要な経費を助成する。 ○平成9年度、熊本県高齢者住宅改造助成事業実施要項が制定され開始された。 ○熊本県高齢者住宅改造事業補助金(市の助成金額の1/2)が交付される。 ○助成対象者が居住する住宅の玄関、廊下、階段、居室、浴室、便所、洗面所及び台所のうち、助成対象者が利用する部分に関するもので、改造工事を行うことにより助成対象者の自立が助長され、又は介助者の負担の軽減が図られるものでなければならない。 ○平成28年度より(11199)介護保険特別会計繰出金等事業へ統合
【業務の流れ】	【市助成金】①改造実施相談・実地調査(改造方法書による助言) ②助成費交付申請審査(地域ケア会議の開催・助成決定(却下)通知) ③助成事業実績報告・実地検査(実施ケース記録簿作成・助成金確定通知・助成金支給) 【県補助金】①補助金交付協議(補助金内示) ②補助金交付申請(補助金交付決定通知) ③補助金概算払申請(受領) ④実績報告(補助金交付確定通知)
【主な予算費目】	報償、扶助費
【意見や要望】	特になし

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標		新規・拡充区分:
①手段(主な活動) 27年度実績(27年度に行った主な活動)(DO)	住宅改造相談、地域ケア会議の開催、合志市高齢者住宅改造事業補助金の交付、熊本県高齢者住宅改造事業補助金の請求	28年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 廃止
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)件	予算の主な増減の理由 介護保険特別会計繰出金等事業への統合により廃止
→ア:改造相談件数		
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	改造実施者	②対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位)件
→ア:助成決定件数		
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	要介護高齢者の在宅での自立促進、介護者の負担軽減が図られる。	③成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位)件
→ア:助成件数		
*③成果指標設定の理由と28年度目標値設定の根拠		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
在宅の要介護高齢者がいる世帯に対し、住宅改造に必要な経費を助成することにより、当該高齢者の在宅での自立促進、寝たきり防止及び介護者の負担軽減を図ることがこの事業の目的であることから成果指標を助成件数とした。毎年度1件は相談があつている。		0

(2)各指標・総事業費の推移		単位	25年度実績(決算)	26年度実績(決算)	27年度目標(当初予算)	27年度実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
①活動指標	ア 件		0	1	1	0				
	イ									
②対象指標	ア 件		0	1	1	0				
	イ									
③成果指標	ア 件		0	1	1	0				
	イ									
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円		42	150				
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
	(A)事業費計	一般財源	千円		42	173				
		(A)事業費計	千円	0	84	323	0			
		(A)のうち指定経費	千円	0	84	300	0			
	人件費	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0			
		正規職員従事人数	人	0	0	2	0			
延べ業務時間		時間	0	0	40	0				
(B)人件費計		千円	0	0	159	0				
トータルコスト(A)+(B)		千円	0	84	482	0				

事務事業名	高齢者住宅改造助成事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	-------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (CHECK)

*原則は27年度の事後評価、ただし複数年度事業は27年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①27年度目標達成度評価	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 住宅改造に対する相談がなかった
	②28年度目標達成見込み	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 この事業の助成対象者となる要件に「介護保険制度による住宅改修を行った者又は行おうとする者」とある。住宅改修で対応できる場合がほとんどであるため助成件数が大きく伸びる見込みはない。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 要介護高齢者の住宅改造に対する補助事業は他にない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 1件あたりの補助限度額の事業費である。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 助成金支給事務に係る必要最少の業務時間数である。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 低所得者への助成措置であり、条件に合致しなければ利用できないため、公平であると考え。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 助成金支給事務は市が行なわなければならない事務である。

3 評価結果の総括 (CHECK)

介護保険制度の住宅改修 (限度額20万円) でほとんどのケースで対応できるため、相談も年に1件程である。しかし、低所得の要介護高齢者の世帯にとっては、20万円を超える改造が必要な場合に対応できるよう無くてはならない制度である。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 (公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策																						